

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社 UTASI		
事業所名	グループホーム うたし		
所在地	〒859-6204 長崎県北松浦郡鹿町町下歌ヶ浦986-38 (電話) 0956-77-4056		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年2月24日

【情報提供票より】(H20年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	11月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤	0人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	11,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(9月 末日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川野医院 ・ 鹿町歯科診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿町漁港に面した静かな住宅街に自然と溶け込んだ佇まいのホームである。リビングの窓からは海に浮かぶ島々の景色が眺望できる。ホームの中では、理念の言葉通り『自分らしく、ありのままに』、入居者一人ひとりのペースを尊重した支援が展開されている。昨年3月には、町の公民館で地域や同業者の方を対象に、日常生活の様子を職員が演じるなどの趣向を凝らし、認知症についての講演会を開催している。今後も2年に1回の頻度で町とも相談し、実施したいと考えている。近隣の方々には頻りにホームを訪れ、町の担当者や警察署の方もホームに立ち寄り寄られるなど、地域と密着したホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価後の改善計画シートの活用はないが、職員会議で改善に向けて話し合っている。前回課題の「地域とのつきあい」については、ホームが地域の一員として暮らしていることが感じ取れた。「職員を育てる取り組み」「同業者との交流を通じた向上」についても、地理的な問題や町内にグループホーム事業所が少ないという問題を抱えつつも、他のグループホームと合同で行事を行ったり、町の公民館で「認知症ってなんやろ」をテーマに講演会を開くなど、努力している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、項目ごとに職員で分担して記入し、職員の意見を聴くなどして管理者がまとめている。外部評価についても、原点に立ち返る機会と捉え、率直な意見を求める姿勢で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、ホームの活動状況等を報告し、参加委員からの貴重な意見を聴く機会と捉えている。会議の中で、AEDを使った救急救命訓練や避難訓練等を消防署の協力を得て実施し、地域の協力支援にも通じる取り組みとなっている。また、参加委員とは日頃から交流があり、信頼関係を構築している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来訪された折には常々意見を聴くように心がけている。夏のバーベキュー行事など、家族が一堂に会する機会もある。新年度からは、介護計画の担当者会議に家族にも参加してもらえるよう検討を始めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームは自治会に加入し、老人会に入会している入居者もおられ、地域の一員として暮らしている。老人会の日帰り旅行には職員同伴で参加し、他にも地区のイキイキサロンなどに参加している。地域の方々が魚や野菜を持って来られたり、町の担当者や警察署の方も立ち寄られることがあり、地域との交流や連携が密にとれている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より職員で想いや意見を出し合い作り上げた理念『自分らしく、ありのままに』を、現在も継承し実践している。地域密着については言葉にして改まって行うことではなく、自然に暮らすことの中にあり、その想いは理念の中に含まれていると考えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者と職員各々の心の中にあり、常時心がけ取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは自治会に加入し、老人会に入会している入居者もおられ、地域の一員として暮らしている。老人会の日帰り旅行や、地区のイキイキサロンなどに参加したり、地域の方々が魚や野菜を持って来られるなど、地域との交流が豊富にある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、項目ごとに職員で分担して記入し、職員の意見を聴くなどして管理者がまとめている。外部評価についても、原点に立ち返る機会と捉え、率直な意見を求める姿勢で取り組んでいる。評価後の改善計画シートの活用はないが、改善会議を開き話し合っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの活動状況等を報告し、参加委員からの貴重な意見を聴く機会と捉えている。会議の中で、AEDを使った救急救命訓練や避難訓練等を消防署の協力を得て実施し、地域の協力支援にも通じる取組みとなっている。また、参加委員とは日頃から交流があり、信頼関係を構築している。		

グループホーム うたし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは折にふれ行き来する機会があり、相談もしやすく、協働関係が築けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られた際に、介護計画の説明や日頃の暮らしぶり等を報告する時間を設けている。おやつや食事の時間を家族にも一緒に過ごしてもらうこともある。遠方におられる等で面会の少ない家族へは定期的に便りで報告し、状況に応じて随時電話報告も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された折には常々意見を聴くように心がけている。夏のバーベキュー行事など、家族が一堂に会する機会もある。新年度からは、介護計画の担当者会議に家族にも参加してもらえるよう検討を始めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。離職についても、この一年間はなく、入居者は馴染みの職員によるケアを受けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	病院や保健所、福祉施設で開催される勉強会になるべく参加し、受講した職員は他の職員へ伝達するようにしている。しかし、地元で開催される研修会が少なく、中心部で開催される研修会に参加するには地理的要因が障害となり、研修受講の機会が少なく、研修内容も限られている。		「私達は認知症介護のプロである。プロである以上はその知識を持つ必要がある」と書かれた張り紙が目につく。外部研修受講にとらわれず、ホーム内での勉強会や、町内のグループホーム合同での勉強会等を検討され、現状維持に留まることなく知識や技術をさらに向上していけることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にあるグループホームは3事業所で、連絡協議会等はないが、今年度初の試みで、町内のグループホームと合同でクリスマス会を行い交流の機会を持っている。今後も継続していく考えである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>昼間のみ利用や泊まりの体験から利用回数を増やしていき、ホームの環境に徐々に馴染めるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員も入居者と共にホームで生活しているという意識が常にあり、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の何気ない会話や表情の中からも思いを拾い出し、わからないことは家族に確認して生活歴からも掘り下げていくなど、想いや意向の把握に努めている。日常生活の中での気付きや家族等からの情報などは記録に留め、介護計画に反映している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制をとっており、担当者が中心となり観察状況を踏まえて話し合い、職員各々の意見も出し合い、介護計画を作成している。介護計画について家族とも話し合い、疑問や質問があった場合は、きちんと説明している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の記録が介護計画と連動しており、さらに普段と異なる会話や表情などの気付きが記載されており、振り返りがしやすくなっている。3ヶ月に1回の見直し以外にも、実情に即した介護計画になるよう随時変更している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活必需品が切れた時など不意の買い物や外出の支援、家族と共にされる外出や外泊の確保、通院受診介助など、要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続受療を支援している。通院受診に同行し、必要があれば家族にも病院に来てもらい、情報を共有している。入居者の状態によっては、往診の対応も依頼している。家族への情報伝達や、それぞれのかかりつけ医との相談等も随時行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療処置を必要とする終末期対応は対象としていないことを、契約時に家族に説明するようにしている。重度化した場合は、家族とかかりつけ医を交え話し合いを行い、ホームとしてできることとできないことを見極めた上で方針を決め、医療機関等と協働し支援するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、入居者の立場にたった言葉かけや対応を心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の言葉通り『自分らしく、ありのままに』一人ひとりのペースを大切にしよう心がけている。		

グループホーム うたし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の方から食材をいただくことも多く、畑で採れた野菜を使い、新鮮な食事を提供している。入居者も一緒に台所に立ち、ホームの目の前にあるスーパーへ買い物に行ってもらうこともある。職員も一緒に食卓を囲み、介助の必要な方の対応もしながら、語らいのある食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できるようにしている。入浴を拒む入居者もおられるが、声かけのタイミングや誘導の仕方を工夫し、個々の希望やペースに合わせた入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者も台所に一緒に立ち、テーブルや茶碗拭き、盛り付けなど個々の力に応じて手伝っている。家事の苦手な男性入居者には、保育園児や小学生の訪問の際、挨拶をしてもらうなどまとめ役を担ってもらっている。趣味の絵画や、散歩などの個別の楽しみごとや、おやつやパンを皆で手作りしたり、年末の餅つきを地域総出で行うなどの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、食材の買い出しや個別に必要な物品の買い物、祭りごとや地域行事への参加、季節の花見ドライブなど、外出の機会を多く持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、入居者は自由に出入りすることができる。訪問調査当日も、入居者が玄関から出られ、外の様子をうかがい戻ってこられる光景があり、職員は入居者の自由な外出を止めることなく、動向を温かく見守っている。また、警察署の方が時々立ち寄り、安全や安心感が得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、運営推進会議のメンバーや地域の方々を巻き込み、消火や避難訓練等を実施している。災害に備えた物品等の検討もされ、飲料水や食料品、紙おむつなど備蓄している。		

グループホーム うたし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	町内の健康教室に参加し、ホームで食べるみそ汁の塩分を測定したり、栄養士の話聞く機会がある。食事や水分摂取量は、一人ひとりチェックし把握しており、変化がある場合などは、かかりつけの医療機関に報告し、相談している。食事摂取量の減少には特に気を配り、栄養補助食品等を何種類も用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に2畳ほどの畳の間があり、草花が活けられ落ち着いた趣が感じられる。リビングの大きな窓からは、鹿町漁港の眺望があり、明るく開放感があり、季節の移り変わりを感ずることができる。また、様々なタイプのソファや腰掛けが入居者の居場所等を考慮し配置され、入居者はゆったり居心地良く過ごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と話し合い、必要品は使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらうようにしている。ベッドも持ち込まれる場合もあり、無い場合は入居者の状態等に合わせてホームで準備している。居室は、入居時のままでなく、入居者の状態に合わせて、家族と話し合いながら危険防止の配慮も行っている。		